

郡中の近代化たどる 伊予市



カラフルな引札や明治の写真が並ぶ「郡中の明治を訪ねる展」

明治期の写真展示

伊予市の中心部・郡中地区の歴史を振り返ると、伊予市米湊の手づくり交流市場「町家」で、「郡中の明治を訪ねる」展が始まった。明治150年記念と施設の14周年事業で、運営する「まちづくり郡中」が企画。活力にあふれていた往時をしのぶ内容となっている。6日まで。

「郡中」は1817年に大洲藩主に命名され、その後、港町として飛躍的に発展した。伊予市の中心部・郡中地区の歴史を振り返ると、伊予市米湊の手づくり交流市場「町家」で、「郡中の明治を訪ねる」展が始まった。明治150年記念と施設の14周年事業で、運営する「まちづくり郡中」が企画。活力にあふれていた往時をしのぶ内容となっている。6日まで。

最新の電話なども見られ、美術と歴史資料の画面で楽しめる。施設マネージャーの重松佳子さん(60)は「町が繁栄した時期を知ってもらい、未来への活力にしてほしい。昨年の郡中200年祭をつないで盛り上げた」と話している。(高橋舞)

会場には明治期の写真約20点を展示。96年に開通した南予鉄道(現伊予鉄道郡中線)停車場での記念撮影には蒸気機関車が写り、町人文化を土台にして近代化へ励んだ時代がみとれる。

また商店が得意先に配った「引札(ひきふだ)」と呼ばれるチラシは、大正期も含めえりすべりの8点を展示。色鮮やかなイラストの中には日英同盟と想われるシーンや当時